



第39回馬関祭(テーマは「サンキュ」)無事開催!

大学祭実行委員会委員長 高木 信一

11月2日の前夜祭から5日の最終日まで、第39回馬関祭(下関市立大学大学祭)は、快晴続きで本当に天候に恵まれた。前夜祭の朝まではぐずつき気味で雨に打たれながらの準備作業だったので、明るい青空の下で無事に終えたこと、まずはおてんとうさまに「サンキュ」である。

今回のテーマは39回にちなんで、これまで「馬関祭」を引き継いでこられた諸先輩始め、私たちを支えてくださるさまざまな人々に感謝の念を込めて「サンキュ」としていた。大学祭を実施するに当たっては、実にさまざまな人々の世話を受ける。夏からの協賛獲得に始まる資金確保の取り組みから、プログラム作りや広報活動、直前の深夜に及ぶ準備作業、大学祭期間中の連絡や種々の世話の活動まで、このテーマそのものを実感しながら進めていた。

特に、毎年苦情を出されながらも、開催には協力してくだ

さる周辺住民の方々、そのような苦情に対応してくださる学生部の方々、あるいは、毎日夜遅くまで居残っている私たちを激励してくださった警備員やOBの方々、そして勿論、互いに協力しながら一緒に取り組んだ各サークルのメンバー達に対しては、感謝の気持ちで一杯である。

今回、メインは、舌鋒鋭い演出家の和田勉氏の講演「テレビ色々」と「Something ELse コンサート」。その他二つのゼミ展を含めて参加サークルによる30余りの小イベント、飲食類出店ブースは40余りに及んだ。願わくば市民にも広く呼びかけて、キャンパスを訪れる観衆が増え、もっとにぎわえばよかったのに、とは思っている。

今年第40回は、21世紀最初の節目の大学祭になる。学生が主体となって作り上げるこの大きなイベントが、なお一層発展し、さまざまな出会いや思い出そのものに「サンキュ」と言えるまでに大いに盛り上がることを期待している。

(経済学科3年)

教育用コンピュータシステムの更新

10月に教育用コンピュータシステムが更新され、秋学期から講義などに使われています。

あらたにB講義棟2階の229番教室がコンピュータ教室になり、42台のパソコンが設置されました。また、学術センター地下1階の電子計算機実習室も更新されて、新しいパソコンが64台設置されました。これらのパソコンは総て学内LANに接続され、すでに接続されていた20台とあわせると、126台の教育用パソコンでインターネットが利用可能になりました。

これにともない、全学生が電子メールを利用できるようになりました。ウェブを利用した電子メールシステムで、学内からだけでなく学外からもメールの読み書きができます。利用希望者は図書館2階のカウンターでユーザIDと初期パスワードの交付を受けて下さい。

このほか、一部の教室とゼミ室に情報コンセントが設けら

れ、講義やゼミでもインターネットが利用できるようになりました。

また、図書館の蔵書検索システムも10月から新システムに変わりました。インターネット接続で検索できるようになりましたので、図書館閲覧室だけでなく、教室、研究室および学外のコンピュータからも蔵書の検索ができます。



コンピュータ実習室に变身した229番教室

下山学長が再選



下山現学長が2001年3月末で任期満了となるのに伴い、12月21日に学内の学長選挙が行われた。選挙は下山学長のほかに候補者がいないため信任投票となったが、賛成多数で再選され、任期は2004年3月までの3年間。下山学長は1933年東京都生まれ、東京大学大学院修士課程修了後、横浜国大、九州大の教授などを経て、1998年4月から本学学長に就任し、これまで本学大学院の設立などに尽力された。

推薦入学・社会人特別選抜を実施

11月20日、本学において2001年度推薦入学・社会人特別選抜が実施された。全国推薦では、各学科24名の募集に対して経済学科76名(前年度25名の募集に65名)、国際商学科65名(同71名)、地域推薦では、各学科36名の募集に対して経済学科48名(前年度38名の募集に50名)、国際商学科40名(同51名)の志願者があった。社会人特別選抜では、各学科3名の募集に対して経済学科1名(前年度1名)、国際商学科1名(前年度なし)の志願者があった。帰国子女特別選抜には志願者がなかった。

合格者は次の通り。全国推薦では経済学科24名、国際商学科24名。地域推薦では経済学科37名、国際商学科36名。社会人特別選抜では経済学科1名、国際商学科1名。

志願状況を前年度と比べると、全国推薦では経済学科で11名増加し、国際商学科で6名減少した。それぞれの倍率は3.2倍(前年度2.6倍)と2.7倍(同2.8倍)で、全国推薦開始以来の高い倍率が依然として続いている。一方、地域推薦では経済学科で2名、国際商学科で11名志願者が減少し、倍率はそれぞれ1.3倍(前年度1.3倍)と1.1倍(同1.3倍)であった。地域推薦の志願者は、1999年度に113名を数えたが、前年度101名、今年度88名と減少傾向にある。とくに今年度は、国際商学科の志願者数が大幅に落ち込んでいる。地域推薦の今後のあり方について議論される必要がある。

韓国の東義大学校で講義



小林 英 治
本学の姉妹校である韓国の東義大学の招待により、釜山広域市を訪問し、9月26日経営大学院の学生約30名に講義を行った。彼らは大学院の最高経営者課程(ノンデグリーの夜間コース)に在籍しており、主として30歳代後半から40歳代の中小企業経営者であるという。新しい経営管理知識を吸収するために学んでいる。

私が講義の題目に選んだのは「日本企業によるアジアへの直接投資」であったが、理論よりも実務・実体験にもとづいて話してほしいと事前にいわれた。日本への留学経験のある朴教授の通訳を介して、わが国企業の進出状況をアジア各国での経験にもとづいて話し、インドネシアで訪ねたことのある韓国企業(スポーツシューズの生産)についても例として言及した。特に今後の展開として裾野産業(中小企業)の重要性やアジアへ進出するに当たっての課題と留意点を指摘した。

私が講義の題目に選んだのは「日本企業によるアジアへの直接投資」であったが、理論よりも実務・実体験にもとづいて話してほしいと事前にいわれた。日本への留学経験のある朴教授の通訳を介して、わが国企業の進出状況をアジア各国での経験にもとづいて話し、インドネシアで訪ねたことのある韓国企業(スポーツシューズの生産)についても例として言及した。特に今後の展開として裾野産業(中小企業)の重要性やアジアへ進出するに当たっての課題と留意点を指摘した。

大学では総長の朴権祐博士と商経学部長兼経営大学院院長の李漢隆博士とお会いし、親しくお話を伺ったことはきわめて有益だった。朴総長は英語学を専門とする学者で、以前下関へ見えたことがあるので、本学の事情にも通じておられる。東義大学には商経、人文、法律政治、自然科学、工学など8つの学部・大学院があり、全部で1万人を超える学生が学ぶ。学生たちが教室や図書館で熱心に学ぶ姿を目の当たりにしたが、先生たちによると欠席は皆無に近いという。本学からの留学生青木正子さん(国商2年)と津崎亮太君(経済3年)とも会うことができた。

今後、両大学間で学術やスポーツ面での交流を進めていきたい。差し当たり外国語教育センター長のヤン教授と話し合い、学生間でEメールによる文通を始めたいと思っている。東義大学の学生と英語で文通を希望する学生は私に連絡してください。お互いに外国語である英語で意見交換をし、いずれ相互訪問の機会がもてたら実り多い交流となろう。(開発経済担当教授)

中国滞在雑感

櫻 木 晋 一



8月23日から10月20日まで、2カ月間の中国滞在であった。中国訪問は初めてのことであり、出発前にはかなりの不安感を抱いていた。その最大の理由は、中国語がまったくできない事

と、歴史の教員なので、今世紀の日中関係史に触れられると大変な事になるといった思いからだった。しかし、貨幣史を研究している私にとって、中世の日本では中国貨幣そのものを日本で流通させていたという事実があり、中国本土における出土銭貨のフィールドワークは研究上避けて通れない。このジレンマに長い間悩まされ続けていたが、今回の青島大学派遣決定を好機と考え、思いきって出かけることにした。

まず、調査のために北京・済南・上海などの研究所・博物館・図書館などを訪問した。長い歴史をもつ中国は、今から2000年以上前のことが歴史といった感じの国で、私が調べたいと考えている13～17世紀の貨幣については、研究の対象外という感じであった。大半の研究者がこの時期の貨幣については、経済史的・考古学的問題意識を持っておらず、私の質問に戸惑っていた。貨幣史研究にとって、出土貨幣を使用する事の有効性を説いてまわり、今後の日中共同研究に対する布石を打ってきたというのが実状である。

滞在した青島という街は、中国の中でもゴミゴミしたところがあり、中国らしくないというのが正直な印象である。広い道路や高層ビルなどの建設ラッシュで活気があり、どこともなく欧米的な雰囲気がある街であった。インフラ整備に努めており、これからますます成長していくことを予感させる街であった。青島大学の広いキャンパスでは、熱心に勉強する多くの学生達に接した。土・日曜日に自主的に開催される日本語コーナーに集まってきて、日本語を貪欲に学習しようという学生達と熱く語り合った時、教員としての充実感を味わった。向かうべき方向性ははっきりしない学生達を多く見かける昨今、このままでは世界の中でわが国は埋没しかねないという危機感を抱いた。今後の市大での教育に、中国での体験を生かしていきたいと考えている。(日本史担当教授)

新任研究員紹介

市大に感じる文化の息吹き

楊 永 志



楊永志と申します。青島大学法学部の副教授です。市大に研究員として招かれ、1年間研修に来られたことをとても嬉しく思っています。

私は長く青島大学法学部で経済法学の教育と研究に携わってきました。中国国内法の研究と同時に隣国日本の法律にも非常に興味があります。というのは、一面では中国と日本の法律は同じ大陸法系に属するので密接な淵源関係があり、また別の一面では日本の法律は多くの面で中国が手本にし、学ぶべき点を持っているからです。研究者として両国の法律を比較研究することは大変意義があるはずです。

市大に来る前は、下関は「万物の精華が天の宝のように存在し、傑出した人を生み出すすばらしい土地」と聞いていましたが、実際に来て初めてこの大学の下関の文化に与える影響、大学に満ちあふれた文化の息吹き、研究の雰囲気を感じました。先生方は各自の研究に、学生達は専門の勉強に力を注ぎ、学校の運営は適正で、秩序もしっかりしています。このような雰囲気の中で、諸先生のご指導とご厚誼を得られることは、生涯の糧になると思います。

最後になりましたが、市大においてよい研究条件と諸先生の協力を得られたことに心から感謝の意を表します。

新任教員紹介

初めまして

ジェームス・ローレンソン



初めまして。私はジェームス・ローレンソンと言います。オーストラリア・ブリスベン市から初めて日本にきました。年齢は27歳。先ごろ結婚しましたが、妻のキャッシーとは今は離ればな

れ。2001年3月には彼女も初来日となります。

オーストラリアでは、クィーンズランド大学(本学の友好協定校)の経済学科博士課程で研究をしながら助手として教鞭をとりました。学部入学は1991年で、1994年に経済学オナーズの学位をもらって卒業しました。1997年に博士課程に入り、勉学の傍ら、ミクロ、マクロ経済学等の1、2年生の講義を担当しました。

研究分野は開発経済論で、アジアの開発経済に特に興味を持っています。博士論文では中国の金融改革と経済発展について論じました。

中国には旅行をかねて2度行きました。スポーツ・ジムやバスケットが趣味です。よろしくお願いします。

(外国語実習担当常勤嘱託講師)

中国人による滞日体験発表会

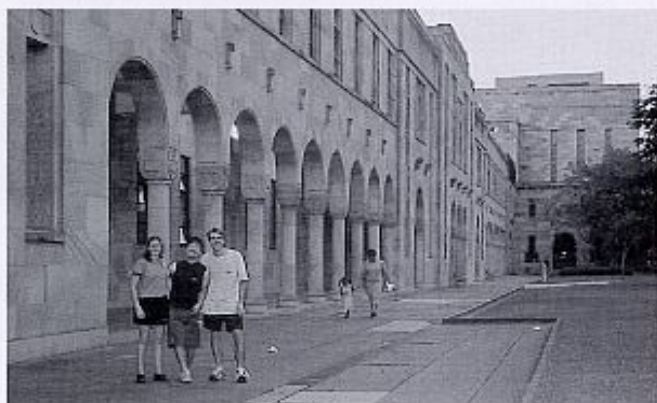
12月12日、シーモールパレスで開催された「第7回日本語による中国人の滞日体験発表会」(下関市日中友好協会主催)で本学留学生9人が発表した。王泰平総領事(中華人民共和国駐福岡総領事館)をはじめ多数の人が熱心に話を聴いた。

発表の内容は、異文化理解、日本人、日本語、教育、日中関係、社会問題等に関するものだった。下関市日中友好協会賞に選ばれた尹京連さん(科目等履修生)は長府庭園で出合った孫文蓮の蓮の花に日中友好の絆が根ざしているのを感じたと述べた。市長賞の董克さん(国際商学科2年)は、国による食べ物の嗜好についての理解不足が人間関係、ひいては、国際関係においても不協和音を引き起こすことについて話した。個人的なかかわりから捕鯨問題に話を発展させた。市議会長賞の姜彦武さん(科目等履修生)の体験談では大学の講義に遅刻し、私語する若者の姿に驚いたというコメントもあった。

なお、発表会に引き続いて行われた交誼会には、本学の留学生20名が出席して市民との交流を深めた。

オーストラリア留学を終えて

クィーンズランド大学交換留学生 石原達也



昨年12月から約1年間の留学を終え、私が成果を得たのは、数字や文字に表れる実質的な成長より自分自身を支える精神的な成長の方が大きかったように思います。

実生活では、コーカサイド系の先進国＝白人系の人種偏見やアジア・有色人種軽蔑志向が意外なほど鼻につくのが最初の驚きでした。もちろん多くのすばらしい方達とも出会うわけですから、安易な人種批判などに走らず、いかに日本人として自分の場所を作り上げるかが大きな課題でした。しかし、特に学生生活の中では毎日が新たな発見の連続で、欧米社会への憧れと日本人としての自己喪失とが葛藤した日も多かったように思います。

そういった中で、幾人かの力ある日本人達と出会い、私自身大きな一歩が踏み出しました。体を動かして働く同世代への共感、生身の他者との交流、イタズラにカネを費やしたり踊らされたりせず、日常生活を高めようとする志向、そうした新世代価値観の台頭に少なからず影響されました。悲観だけでは何も進まない、何か始めなければと皆が感じ始めているのだと強烈に感じました。

成績は現地学生に劣らない数字をいただき、9月にはボランティアとしてオリンピックにも参加させていただきました。こうした成果を残せたのは他でもない下関市立大学の支えがあったからだと思っています。

そして、大学生活の多くを共にしてきた野球部の仲間をはじめ、家族やこの留学をサポートしてくださったすべての方々にお礼を言いたいと思います。(国際商学科2年)

平成 12 年度就職状況

平成9年に就職協定が廃止され、早い企業では2月から会社説明会をはじめるところがでてきた。

この影響を受け、秋学期試験終了直後(2月下旬)から学生は就職戦線に突入し、本学の就職委員もその対応に奔走した。今年度の本学の内定状況は現時点(13. 1. 17)で昨年に比較すると8.4ポイントの上昇となった。

文部省と労働省が調査した平成12年12月1日現在の就職内定状況調査(4年生大学)によると、就職希望大学生の地域別内定率は全国で74.5%と極めて厳しい状況である。その中で特に西日本は更に悪く、九州地区は59.0%(全国最低)でしかない。

本学の平成13年1月17日現在の内定率は、男子62.8%、女子70.1%、全体で65.4%である。主な就職先は下記のとおり。

平成 12 年度就職内定一覧表 (平成 13 年 1 月 17 日現在)

■建設 (12) - 大倉建設 - 一条工務店山陰 - 大和ハウス工業 - 積水ハウス - 山口積水ハイム - 溝江建設 - オンテックス - 協立エアテック - レオパレス 21 - クボタハウス ■食料品 (8) - 明治乳業 - 四国明治乳業 - 伊藤園 - 日本食研 - 林兼産業 - フジパン - マリンフーズ ■衣服・繊維 (1) - 小竹正 ■出版・印刷 (11) - 四国新聞社 - 産業経済新聞社 - 大日本印刷 - ゼンリン - 新興出版社啓林館 - マツモト - 中央出版 - メリット ■化学 (4) - ノエビア - ファイザー製薬 - 再春館製薬 ■非鉄金属 (2) - トステム ■金属 (1) - 三協アルミニウム ■一般機械 (2) - 金井重要工業 - 長府製作所 ■電気機械 (5) - 三菱電機 - 日立製作所 - NEC ■輸送用機械 (2) - 日本輸送機 - スズキ ■精密機械 (1) - 大分キャノン ■その他製造 (7) - 大善 - キャスコ	- タカラスタンダード - パッケージ中澤 - 段谷産業 - 長州産業 ■通信 (3) - アイ・イーグループ - 電盛社 ■運輸 (32) - 日本通運 - 日本通運航空事業部 - 日本通運 - 下関国際輸送支店 - 福山通運 - 下関海陸運送 - 関光汽船 - 山九 - 上組 - 三菱化学物流 - 岡山県貨物運送 - 九州ヤマト運輸 - 日本トランスシティ - 日本旅行 - 東急観光 - J R 西日本 - 日本交通 - 西日本観光サービス - アトラス - 読売ツアーサポート 21 - サカイ引越センター - 日本紙運輸倉庫 - セントラルショッピング ■商社 (29) - 日通商事 - 日製産業 - 神栄 - 阪和興業 - 国分 - 山善 - 大西商事 - ジャヴァグループ - 佐渡島 - トーハン - 南国殖産 - 不二貿易 - 常盤薬品 - 下関管材 - えびす本郷 - 国際経営 - アキタ - セントラル商事 - ウンディッチ・ノーベ - 小倉興産 - シモセン	■小売 (70) - サンデーサン - ナフコ - 大成社 - ホラヤ - 日本トイザラス - 山口テレコム - 大塚家具 - 明屋書店 - 富士薬品 - シズカグループ - フルベール - ベスト電器 - ビッグモーター - やまと - ひまわり - 新日配薬品 - コープこうべ - 丸久 - フジ - イズミ - ヨネザワ - 山口トヨペット - ハローズ - 平田ナーセリー - トラベラー - 岩崎宏康堂 - モーツアルト - スズキ自販山口 - 鳥取大丸 - いない - ニッセンユービスト事業部 - 西洋フード・システムズ九州 - ビジョンメガネ - 三越倉敷店 - アールピバン - コーナン商事 - アプライド - アニス・ペー・サンライズ - 青山商事 - ヤマダ電機 - ジェイアンドジェイ - ウェルネス湖北 - ジャストミート - コーポレーション - ニコニコ堂 - 松早グループ - 大分キャノン - ホラヤ ■銀行 (19) - 日本銀行 - 国民生活金融公庫	- 西京銀行 - 山口銀行 - 中国銀行 - 徳島銀行 - 伊予銀行 - 南日本銀行 ■証券 (8) - 野村証券 - 丸三証券 - 新光証券 - 日の出証券 - 八幡証券 - 大熊本証券 ■保険 (5) - 安田生命 - 第一生命 - 東京海上火災保険 - 山口支社 - 全労済 ■商品取引 (8) - 三貴商事 - 洗陽フューチャーズ - タイセイコモディティ - オリエント貿易 - 太陽ゼネラル - アイメックス - グローバリー ■その他金融 (17) - 下関信用金庫 - 吉備信用金庫 - 島根信用金庫 - 米子信用金庫 - 萩信用金庫 - 北九州八幡信用金庫 - 国内信販 - 武富士 - しんわ - 佐銀リース ■不動産 (4) - 下関商業開発 - ハウスメイト管理 - 大和サービス ■医療 (4) - 佐藤第一病院 - 大久保病院 - 社会福祉法人健祥会グループ ■教育 (10) - 英進館 - 教育企画 - 育英館 - 南九州学園 - アリストグループ	- ノヴァ - 鷗州コーポレーション ■非営利団体 (3) - 労働福祉事業団 - オイスカ - 社会保険診療報酬 - 支払基金 ■サービス (37) - ジャステック - フォーサイトシステム - アクティス - トラスティングシステム - アイエックス・ナレッジ - ソフトウェアサービス - 日本データコントロール - SCS - インテック - 朝日広告社 - 日本セレモニー - J A 全農山口県本部 - J A 山口中央 - 総合警備保障 - ウチムラ - 応用地質 - アビパジャパン - トライ - エイムズ - 下松ケーブルテレビ - 川淵税務会計事務所 - ダイナム - 富士通鳥取システム - エンジニアリング - 乃村工務社 - 米川会計事務所 - ユーコー - MSコーポレーション - 市議会議員事務所 ■国家公務 (6) - 中国郵政局 (Ⅲ) - 九州郵政局 (Ⅲ) - 郵政外務 - 法務教官 - 防衛庁 (Ⅲ) ■地方公務 (9) - 下関市役所 - 平田市役所 - 出水市役所 - 柳川市役所 - 福岡県警 - 高知県警 - 愛媛県警 ■自営 (3) - 合計 323 名
--	--	---	---	--

大学院・経済学研究科学生募集(第二次)

本学大学院には、現在、経済社会システム専攻に7名、国際ビジネスコミュニケーション専攻に6名が在籍している。内訳は、新卒者・社会人・外国人・定年退職者ときわめて多彩である。これに対して、幅広い科目群を配置し、昼夜開講体制や図書館の夜間開館などで対応している。昨年10月実施の平成13年度入試(第一次)では、経済社会システム・国際ビジネスコミュニケーション各2名の合格者をみている。

以下の要領で平成13年度の学生募集(第二次)を行う。

1. 募集人員

経済社会システム専攻	若干名
国際ビジネスコミュニケーション専攻	若干名

(※社会人・外国人留学生を含む)

2. 試験期日・出願期間

試験期日：平成13年3月17日(出)

出願期間：平成13年2月21日(火)～2月28日(水)

(※出願資格に関する詳細は本学教務部へ)

3. 選抜方法

入学者の選抜は出願書類、筆記試験及び口述試験により総合判定する。

	一般選抜	社会人選抜	外国人留学生選抜
小外国 語又 文は	外国語 (英語、中国語、 朝鮮語より1科目 選択)	小論文 (社会科学全般に関する常識問題)	
論 述 試 験	経済理論・社会政策・労働経済・地域産業・経営管理・人事労務管理・日朝関係史・開発経済の8分野について出題するので、そのうち1問を選択。		
口 述 試 験	志願者の研究意欲、研究能力、研究計画、就学条件等を判定する。		

※「社会人選抜」・「外国人留学生選抜」の該当者は「一般選抜」でも受験できる。ただし、事前に届け出た選抜方法は変更できない。

※永住外国人を除く外国人、あるいは外国人留学生が「一般選抜」で受験する場合は、母国語の選択はできない。

※外国語は辞書持ち込み可。

4. 合格発表

平成13年3月22日(木)午前10時、本学にて。

留学生に本の寄贈

本学の学生サークル「国際交流会ともだち」のOBが市大留学生に書籍11冊を寄贈した。11月4日に行われた国際交流ともだち設立10周年記念行事の一環として贈られたもの。有効的に利用できるように学友会館2階の留学生室に「ともだちOB文庫」として保管される。

第39回中国四国学生ゼミナール大会 (於・広経大)に参加して

田代 恭子・高橋 利佳



11月18・19日、表記のインター・ゼミ大会が広島経済大学で開催され、私たち山本ゼミは本学を代表した形で参加した。大会には、7つのパートに6大学から百名余りが参加していた。私達は「経営学」のパートで「日本企業の現状と政府の政策の在り方—企業の雇用問題をふまえて—」というテーマで広経大・高岡ゼミ、愛媛大・和田ゼミと議論した。

私達の提出論文のサブテーマは「四大卒女子の就職問題」で、高岡ゼミは「フリーター問題」、和田ゼミは「そごう問題」を扱っていたが、特に企業の雇用問題に焦点をあてて議論しあった。私たち4年生女子は、自分の就職活動を通して、雇用機会均等法の趣旨にも関わらず依然として実態面では男女差別が行われていることを痛感し、それを訴えたい、また他大学の学生はどのように感じているのかを知りたいという思いで大会に臨んだが、限られた時間で論証に苦勞した。しかし、男女就職差別のデータ不足、特に総合職と一般職についてのデータ不足、また、「機会の平等」と「結果の平等」についての把握不足を指摘してもらい、今後卒論を作成する上で参考になった。

最後に後輩に望むのは、市大の他ゼミからもこの大会に積極的に参加してほしいこと、そのためにもゼミナール連合会を発足してほしいことである。(国際商学科 山本ゼミ4年)

第二回中国語劇

「さよなら、瀬戸内海!」の公演を終えて

山田留里子

200の椅子は満席、立見席でもでき喜びに満ち迎えることができました。すべてを破壊し尊き人間の生命を奪いゆく戦争は最大の蛮行であり最も反価値の行為であることを訴える本劇の台本を携え北京の鄧友梅先生にお渡しメッセージも頂く事もできました。20名で10月から毎日練習し当日は作品中の人物、中元幸広さんも駆けつけ、暖かな激励を受けました。人と人の心を結ぶものは誠実さであることを全員で再確認いたしました。(中国語担当助教授) 平見あや：本番はみんなの心が一つになり今までの練習の中で最高の演技が出来ました。(国際商学科4年) 岡 雅之：戦争が決して自分達とは違いものではないと言う事やその時代に生きた人々を忘れてはならない。

(経済学科2年)

豊海裕介：大切な事は発音や振りの指導も協力して作り上げるものだと思います。(経済学科2年)

セクシュアルハラスメントとは？

セクシュアルハラスメント等対策委員会

セクシュアルハラスメントって？

セクシュアルハラスメント(セクハラ)は、教育・研究・就労などの関係において、相手が望まない、相手の意に反する性的な言動です。行う本人にその意図がなくても、相手が不快に思い性的な嫌がらせと感じれば、セクハラになります。したがって、自らは気づかないうちに加害者となることもあり得るわけです。

多くの場合セクハラは、教員と学生・上司と部下・先輩と後輩など権力関係や上下関係において、立場の強い者が弱い者に対して力関係を利用して行われます。ほとんどの場合、男性から女性に対して行われますが、女性から男性へ、あるいは同性間でも起こり得る事です。

セクハラは、快適な環境で学習・研究・労働する権利を奪い、相手に不利益を与える場合もあり、明らかに人権を侵害するものです。

具体的にはどんなこと？

いくつかの例を挙げると：

①相手を特定しないセクハラ

人目に触れる所にヌード写真やカレンダーを貼る。コンピューター画面にアダルトページを表示する。

②行動によるセクハラ

コンパの際、隣に座ることを強要したり、無理やりお酌をさせる。不必要に身体に触れる。

③言葉によるセクハラ

性的な風評を流す。容姿など身体的特徴を話題にする。食事やデートにしつこく誘う。

被害を受けたらどうするか？

①嫌だとはっきり意思表示を

相手の行動がセクハラであると警告しましょう。毅然とした態度によって、相手にはっきりと意志を伝えることが大切です。

②記録を取る

「いつ、どこで、誰から、どのような被害を受けたか」について、できるだけ早く記録しておきましょう。現場にいた目撃者に記録してもらうことも重要です。

③勇気を出して相談を

一人だけで悩まず、まず身近な人に打ち明けましょう。些細なことでも勇気を出して相談窓口に連絡をください。プライバシーは守られ、相談して不利になることはありません。相談窓口は次の通りです：

電話：学生部 0832-52-0288(内線206)

健康相談室 0832-53-8986

e-mail: harass@shimonoseki-cu.ac.jp

市大生による交通事故が頻発している！

昨年の7月21日付で以下の警告文を学内に掲示した。
《告/本学の学生による交通事故が、相次いで発生している！/悲劇を繰り返すな！/よくよく注意せよ！/徹底して、安全運転を心がけよ！》

市内でUターンしようとした市大生の車と衝突したバイクの青年が死亡する事故が起こって直ぐの措置だった。2月に市大生の2人乗りの車が操作を誤って海に転落、内1人が亡くなっていた。また、4月にはバイクがパトカーの追跡を受けて(相乗りの学生がヘルメット未着用のため)逃走中、交差点で出会い頭に乗用車に衝突して2人の市大生が重軽症を負うという事故も起こっていた。

10月に、再度、下関警察署の交通総務課長を招き「交通安全講習会」を開いた。学生を含む若者の交通事故は年々増加傾向にある。11月末までの市内の大学生が関係する人身事故は52件、物損事故は254件。いずれも一昨年を上回っている。市内4大学(市大、水産大、東亜大、梅光女学院大)と下関・長府・彦島の3警察署合同による年2回の「交通問題懇話会」の中で、交通事故防止対策を話し合っているが、学生各自の安全運転への自覚を促すしかないのが現状である。車は、安全と注意を怠れば、走る凶器となる。事故は起こってしまえば、取り返しがつかない。親を初め、周りの者達を不幸に陥れる。

今後、「交通安全講習会」は年2回実施する。運転時の体験について互いに語り合う「危険予知トレーニング=KYT」の場も設けたい。運転する学生はぜひ参加して事故防止に努めて欲しい。
(学生部より)

※この記事提出後、12月23日未明に本学2年生運転の乗用車が、スピードの出しすぎでガードレールに激突し、間もなく死亡するという痛ましい事故が起きてしまった。

交換留学生の選抜と単位認定について

オーストラリア交換留学(グリフィス大学2名とクィーンズランド大学2名)およびトルコ留学(ボアジチ大学2名)の志願者選抜は、従来の学内試験をやめて、TOEFL 評価点を選抜資料に使うことになった。2001年度から実施する。

なお、TOEFL 170点以上は自主選抜範囲内で単位認定の対象となる。また、派遣先で取得した単位は振り替えが可能である。

TOEFL テストは毎月実施される。交換留学生選抜のためのTOEFL スコア提出(本学庶務係)の期限は、トルコ留学は6月末、オーストラリア留学は7月末までに必着となっている。これに間に合うようにTOEFLを受験すること。

本学で大学生協中四教職員交流会を開催

11月11日(土)、12日(日)、本学において全国大学生協連合会中国・四国地域センター主催の教職員・院生交流会が開催された。中国・四国の国立大学を中心に12大学から教員理事長を含む33名の参加があった。初日には、下山学長の歓迎挨拶に続いて、全国大学生協連合会の田中会長基調

講演が行われた。

今回のイベントの開催は、1987年の設立以来13年を経過した本学生協にとって、この間の成長の証であるとともに、本学を他大学にアピールする絶好の機会でもあった。

私の教育・研究

雲島 悦郎



私は18世紀のイギリス小説、中でも特にヘンリー・フィールディングの作品を研究しています。代表作は『トム・ジョーンズ』で、W. S. モームはこの作品を「世界の十大小説」の一つに挙げています。また、

映画化されて、1963年のアカデミー賞を受賞しました。最近では、ビデオ版がビデオ・ショップでも貸し出されていますので、観てもらいたいのですが、原作とは随分違うので、できたら翻訳(岩波文庫)も読んでほしいと思います。

私は、本学に着任してから25年以上になりますが、最初の20年ほどは英語の授業をするだけで、自分の研究分野について学生に語る機会がほとんどなく残念に思っていました。しかし、数年前に現カリキュラムが変わってから、「外国文学」と「教養演習」を担当するようになり、やっと研究と教育の接点ができました。「外国文学」ではフィールディングを含む6人の英国小説家について話しました。そして「教養演習」では昨年度は、この6人のうちの1人、ダニエル・デフォーの『ロビンソン・クルーソー』をテキストに選びましたが、受講者が1人という惨めな結果に終わりました。今年度は、6人のうちのもう1人、ジョナサン・スウィフトの『ガリヴァー旅行記』の映画を教材にしたところ、受講者は定数一杯になりました。来年度は、ジェイン・オースティンの『エマ』をやろうと思っています。是非、受講して下さい。(英語担当教授・図書館長)

第24回西日本学生中国語弁論大会 (燎原会主催)で第3位



城山 拓也君

西日本の大学生が参加する中国語弁論大会が12月17日兵庫県で開催され、本学の国際商学科1年城山拓也君が第3位受賞。他大学は2、3年生の出場で1年生は本学のみでの大健闘ぶり。「今まで中国語について経験した事はすべて自分にプラス

になった。もっと頑張れる、もっと語学力を伸ばせるはずだと言う気持ちが一つ終える毎に形成されてきた」と冬休みを北京語言文化大学での留学へと思いを馳せていた。※城山君は、全日本中国語スピーチコンテスト山口大会でも優勝。同大会では、ほかに国際商学科3年中塚康博君も準優勝している。

第47回関北インカレ秋季大会結果報告

第47回北九州・下関地区大学体育大会(通称“関北インカレ”)の秋季大会は、19大学が参加して10月28日から12月3日までの間に11競技が行われました。

各競技共、日頃の練習成果を存分に発揮して戦いました。

これからも尚一層奮起して頑張ってください。

秋季大会の成績は次のとおりです。

1	準硬式野球	1回戦敗退		
2	硬式庭球	男団 2回戦敗退	女団 2回戦敗退	
3	ソフトテニス	男団 1回戦敗退	女団 3位	
4	卓球	男団 優勝 ダブルス 優勝 シングルス 準優勝		
5	バレーボール	男 2回戦敗退		
6	バドミントン	男団 3位	女団 3位	
7	サッカー	優勝		
8	空手道	予選敗退		
9	剣道	予選敗退		
10	柔道	男団 3位		
11	弓道	男団 4位	女団 7位	

学生団体新役員紹介

中央委員会

委員長	白石さやか	国際商学科	2年
副委員長	島田 直宜	国際商学科	2年
副委員長	河野恵理子	経済学科	2年
書記長	池田日香里	国際商学科	2年



白石さん

体育会

会長	中西 俊宏	国際商学科	3年
副会長	上野 雅司	経済学科	3年
書記長	橋本 敏男	経済学科	3年



中西君

文化会

会長	藤野 敬太	経済学科	3年
副会長	安部 信幸	国際商学科	3年
副会長	掛 重成	国際商学科	3年
書記長	原 希実子	国際商学科	3年



藤野君

大学祭実行委員会

委員長	高瀬 晃	経済学科	2年
副委員長	後藤 英介	経済学科	2年
副委員長	本田 純	経済学科	2年
総務部長	曲 美代	国際商学科	2年



高瀬君

下関市立大学後援会援助規程による表彰

(平成12年3月・平成12年10月)

【各種大会(体育・文化)出場報奨】

サッカー部

第46回北九州・下関地区大学体育大会秋季大会 優勝

準硬式野球部

平成11年度中国地区大学準硬式野球秋季リーグ戦

第1部大会 優勝

第46回北九州・下関地区大学体育大会秋季大会 優勝

卓球部

第46回北九州・下関地区大学体育大会秋季大会 優勝

弓道部

第46回北九州・下関地区大学体育大会秋季大会

男子団体優勝

弓道部 藪中 大輔(国際商学科2年)

第46回北九州・下関地区大学体育大会秋季大会

個人戦優勝

国際商学科 4年 平見 あや

全日本中国語スピーチコンテスト第2回山口県大会

弁論一般の部 1位

国際商学科 2年 石口 洋子

全日本中国語スピーチコンテスト第2回山口県大会

弁論基礎の部 2位

【各種資格取得報奨】

経済学科 2年 藤村 薫 宅地建物取引主任者

4年 井元 正 英語検定準1級

TOEIC 750点以上

H.12.3.卒 木村真太郎 初級システムアドミニストレータ

国際商学科 4年 平田 昌朋 英語検定準1級

TOEIC 750点以上

4年 山崎 里美 中国語検定 準2級

4年 大谷 卓也 通関士

4年 野津 友美 初級システムアドミニストレータ

4年 日浦佳奈子 簿記検定1級

H.12.3.卒 岩城 香苗 ハングル能力検定準2級

H.12.3.卒 糟谷 宜伸 英語検定準1級

H.12.3.卒 川田 雅子 初級システムアドミニストレータ

行事記録(2000年9月～12月)

- 9月 1日(金) 春学期補講 9/5まで
 6日(木) 春学期定期試験開始 9/20まで
 11日(月) 大学院願書受付開始 9/18まで
 20日(水) 就職ガイダンス
 市民大学(朝鮮語中級) 12/6まで
 21日(木) 市民大学(英語中級) 12/21まで
 25日(月) 市民大学(中国語中級) 12/18まで
 10月 3日(火) 大学院入試
 10日(火) 秋学期授業開始
 14日(土) 市民大学連続シンポジウム「下関の20世紀

を振り返る(下関の在日朝鮮人)」

16日(月) 大学院入試合格発表

19日(木) 春学期卒業式

21日(土) 市民大学連続シンポジウム「下関の20世紀
を振り返る(戦争と下関)」

23日(月) 市民大学(コンピュータ) 12/11まで

28日(土) 市民大学連続シンポジウム「下関の20世紀
を振り返る(町並みと建物の一世紀)」

11月 2日(木) 大学祭 11/5まで

推薦入学・特別選抜(帰国子女・社会人)願
書受付開始 11/10まで

15日(水) 就職ガイダンス

20日(月) 推薦入学・特別選抜(帰国子女・社会人)入
試27日(月) 推薦入学・特別選抜(帰国子女・社会人)合
格発表29日(水) 推薦入学・特別選抜(帰国子女・社会人)入
学手続開始 12/6まで12月 4日(月) 特別選抜(中国引揚者等子女・外国人留
学生)願書受付開始 12/15まで

25日(月) 冬季休業開始 1/7まで

28日(木) 公務納め

平成13年度行事予定

- 4月1日(日) 春季休業
 4月7日(土) 入学式
 4月8日(日) 春学期授業開始(オリエンテーションを含む)
 4月9日(月) 開学記念日
 6月1日(金) 夏季休業
 7月16日(月) 春学期補講
 8月31日(金) 春学期定期試験
 9月3日(月) 秋学期授業開始
 9月5日(水) 大学祭
 9月6日(木) 冬季休業
 9月18日(火) 秋学期補講
 10月9日(火) 秋学期定期試験
 11月上旬 卒業式
 12月25日(火) 1月7日(月) 2月5日(火) 2月6日(水) 2月7日(木) 2月19日(火) 3月25日(月)

編集後記

広報33号が出来上がった。いわゆる「一面トップ」を何で飾るか悩みの種でもあり楽しみでもあるが、サンショウ株式会社のご好意で写真をご提供いただき、大学祭の記事で何とか形になった。ここに御礼申し上げたい。今号は投稿記事が多く、狭い紙面の中に多彩な内容を押し込めざるを得なかった。執筆者の写真や肩書きは不要であるとする向きもあるが、外部の読者に対しても分かり易い、顔の見える紙面作りを目指したものである。次号は6月1日発行予定。今後ともご支持とご意見を乞う。(谷口)